

平成29年度事務事業評価シート

No.321

平成29年6月25日作成

事業番号	446		担当課等		社会教育課図書館						
事務事業名	図書館資料整備事業										
予算科目コード	会計	01	款	09	項	07	目	03	事業開始年度	平成 12 年度	

1 事業概要(平成29年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策
P131 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	4 生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり	I 生涯学習の推進	4 生涯教育	(3) 図書館施設・運営の充実	② 図書館資料の充実
関連する個別計画					
目的	多様化する町民のニーズに沿った図書館資料を提供すること。				
対象	町民及び図書館利用者				
内容	豊富で幅広い図書、定期刊行物、視聴覚資料の収集すること。				

2 実施結果

(単位 円)

コスト	区 分		平成27年度(決算)	平成28年度(決算)	平成29年度(見込)		
	事業費		6,295,986	6,479,480	6,502,000		
	人件費	常勤職員	1,306,858	1,078,580	1,052,096		
		非常勤職員等	256,320	264,960	269,700		
		人件費合計	1,563,178	1,343,540	1,321,796		
	総事業費		7,859,164	7,823,020	7,823,796		
財源内訳	国庫支出金						
	県支出金						
	地方債						
	その他特定財源						
	一般財源		7,859,164	7,823,020	7,823,796		
	財源合計		7,859,164	7,823,020	7,823,796		
活動指標			指標設定の理由・考え方	単位	平成27年度	平成28年度	目標値
人口1人当たりの資料購入費			年間資料購入費／人口	円	219.1	222.2	313.0
成果指標			指標設定の理由・考え方	単位	平成27年度	平成28年度	目標値
人口1人当たりの貸出点数			年間貸出総点数／人口	点	5.4	5.2	5.5

3 平成28年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	教育や文化の醸成は、行政が直接、公的責任のもとで行ったほうがよいと考える。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5	図書館資料の収集によって、幅広く多様なニーズに応えることができたと考ええる。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4	情報提供や文化的な生活を支えるものとして、図書館資料は有効であると考ええる。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	4	全町民を対象としており、乳幼児から高齢者まで幅広い層のニーズに沿った資料を選定、収集している。
平成28年度までの自己評価または改善点		貸出及びリクエスト状況等を踏まえ、子育て支援等重点分野を設けて収集した。また、県内公共図書館との相互貸借や寄贈本の活用等を行った。	

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)		
委託・指定管理導入の可能性	3	図書館は町直営により運営しており、資料の整備についても町が実施する必要があると考える。
平成29年度の見直し及び改善 (実績または予定)	利用者のニーズを考慮し、新刊文庫本の受入を進めていく。	
平成30年度以降の方向性	今後も町民のニーズに沿った図書館資料を収集、提供する。	

5 一次評価(平成30年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

平成29年度事務事業評価シート

No.322

平成29年6月25日作成

事業番号	449	担当課等	社会教育課図書館							
事務事業名	ブックスタート・セカンドブック推進事業									
予算科目コード	会計	01	款	09	項	07	目	03	事業開始年度	平成 15 年度

1 事業概要(平成29年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策
P131 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	4 生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり	I 生涯学習の推進	4 生涯教育	(3) 図書館施設・運営の充実	(4) 子どもたちに対するサービスの推進
関連する個別計画					
目的	図書と親しむきっかけを作り、学齢期の読書活動の基礎となる「家庭での読書」を定着させる。				
対象	・4か月乳児及びその保護者(ブックスタート) ・小学校1年生及びその保護者(セカンドブック)				
内容	ブックスタートでは、4か月児健康診査において、絵本の配布及び絵本の読み聞かせ等を実施している。セカンドブックでは、小学校入学時に、各児童が希望した図書を学校長が直接手渡し、また、ボランティアによる読み聞かせ等を実施している。				

2 実施結果

(単位 円)

コスト	区 分		平成27年度(決算)	平成28年度(決算)	平成29年度(見込)		
	事業費		324,987	297,185	325,000		
	人件費	常勤職員	291,312	246,760	239,816		
		非常勤職員等					
		人件費合計	291,312	246,760	239,816		
	総事業費		616,299	543,945	564,816		
財源内訳	国庫支出金						
	県支出金						
	地方債						
	その他特定財源						
	一般財源		616,299	543,945	564,816		
	財源合計		616,299	543,945	564,816		
活動指標			指標設定の理由・考え方	単位	平成27年度	平成28年度	目標値
ブックスタート配布率			配布者数/対象者数	%	100	100	100
セカンドブック配布率			配布者数/対象者数	%	100	100	100
成果指標			指標設定の理由・考え方	単位	平成27年度	平成28年度	目標値
児童図書貸出点数			児童図書の利用状況	点	33,235	30,880	34,000

3 平成28年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	4か月児健康診査及び小学校入学の対象者は行政機関しか収集できない情報であるため、町が実施すべきと考える。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	4	少子化や活字離れ等の傾向が見られる中、親子の読み聞かせや読書へのきっかけを作った。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4	図書に親しむきっかけ作りに加え、本を介した家庭内でのコミュニケーションの増進が図られている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	4	事業主管課と連携し、対象者を把握した上で実施した。他市町村からの転入児童(1年生)にも配布している。
平成28年度までの自己評価または改善点		ブックスタートはボランティアの協力を得ることで保護者へより丁寧に説明することができた。セカンドブックは対象図書を図書館で館外貸出することにより、図書への興味を広げることができた。	

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)		
委託・指定管理導入の可能性	3	4か月児健康診査及び小学校入学の対象者は行政機関しか収集できない情報であるため、町が実施すべきと考える。
平成29年度の見直し及び改善 (実績または予定)	事業のフォローアップとして、読書手帳の配布や年齢別おはなし会、ブックトークの充実を図り、図書館利用の増加につなげていきたい。	
平成30年度以降の方向性	家庭での読書の楽しさを実感できる環境を整えるため、事業を継続していく。	

5 一次評価(平成30年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

平成29年度事務事業評価シート

No.323

平成29年6月25日作成

事業番号	1084	担当課等	社会教育課図書館							
事務事業名	図書館施設整備事業									
予算科目コード	会計	01	款	09	項	07	目	03	事業開始年度	平成 25 年度

1 事業概要(平成29年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策
P131 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	4 生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり	I 生涯学習の推進	4 生涯学習	(3) 図書館施設・運営の充実	① 図書館施設整備の推進
関連する個別計画					
目的	建物及び附属設備の老朽箇所を改修することにより安全性を確保し、町民及び利用者にとって安全・安心な図書館運営を行うこと				
対象	町民及び図書館利用者				
内容	【平成27年度】 消防設備改修工事、会議室空調設備改修工事、 高圧受変電設備改修工事 【平成28年度】 誘導灯交換修繕、屋上建屋改修工事				

2 実施結果

(単位 円)

コスト	区 分		平成27年度(決算)	平成28年度(決算)	平成29年度(見込)		
	事業費		4,325,761	873,720	7,528,000		
	人件費	常勤職員	313,540	123,368	299,710		
		非常勤職員等					
		人件費合計	219,478	123,368	299,710		
	総事業費		4,545,239	997,088	7,827,710		
財源内訳	国庫支出金						
	県支出金						
	地方債						
	その他特定財源				3,500,000		
	一般財源		4,545,239	997,088	4,327,710		
	財源合計		4,545,239	997,088	7,827,710		
活動指標			指標設定の理由・考え方	単位	平成27年度	平成28年度	目標値
利用者一人あたりに換算した工事請負費			工事請負費/利用者人数	円	86.2	18.0	150
成果指標			指標設定の理由・考え方	単位	平成27年度	平成28年度	目標値
人口1人当たりの貸出点数			年間貸出総点数／人口	点	5.4	5.2	5.5

3 平成28年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	4	図書館は町直営により運営しているため、町が実施する必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	4	竣工から38年を経過しており、建物及び附属設備の老朽箇所について、優先順位を考慮して実施した。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	3	優先順位を考慮した改修の実施により、建物及び附属設備の安全性が高まった。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	3	建物及び附属設備の改修により、来館する町民及び利用者が安心して継続的に図書館を利用することができる。
平成28年度までの自己評価または改善点		図書館の開館を確保しながら建物及び附属設備の改修を実施するあたり、町民及び図書館利用者への影響をなるべく避けるため、休館日を有効的に活用する等、施工日及び施工方法に配慮した。	

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)		
委託・指定管理導入の可能性	2	図書館は町直営方式により管理・運営しているため、町が実施する必要がある。
平成29年度の見直し及び改善 (実績または予定)	平成29年度は消防設備改修工事を実施し、不作動等となっている消防設備を改修する。	
平成30年度以降の方向性	老朽化、安全性及び利用者への影響等により優先順位を考慮し、引き続き建物及び附属設備の改修を実施する。	

5 一次評価(平成30年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

平成29年度事務事業評価シート

No.324

平成29年6月25日作成

事業番号	1132	担当課等	社会教育課図書館							
事務事業名	子ども読書活動推進事業									
予算科目コード	会計	01	款	09	項	07	目	03	事業開始年度	平成 17 年度

1 事業概要(平成29年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策
P131 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	4 生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり	I 生涯学習の推進	4 生涯学習	(3) 図書館施設・運営の充実	(4) 子どもたちに対するサービスの推進
関連する個別計画	第三次湯河原町子ども読書活動推進計画				
目的	第三次湯河原町子ども読書活動推進計画(計画期間:平成29年4月～平成34年3月)に基づき、子どもの読書活動を総合的に推進する。				
対象	おおむね0歳から18歳まで				
内容	第三次湯河原町子ども書活動推進計画に基づき、ブックリストや読書手帳の配布、子ども読書まつりの開催等、子どもが読書に親しむための機会の提供と環境づくりを行う。				

2 実施結果

(単位 円)

コスト	区 分		平成27年度(決算)	平成28年度(決算)	平成29年度(見込)		
	事業費		322,948	86,521	85,000		
	人件費	常勤職員	192,185	728,340	398,404		
		非常勤職員等					
		人件費合計	192,185	728,340	398,404		
	総事業費		515,133	814,861	483,404		
財源内訳	国庫支出金						
	県支出金						
	地方債						
	その他特定財源						
	一般財源		515,133	814,861	483,404		
	財源合計		515,133	814,861	483,404		
活動指標			指標設定の理由・考え方	単位	平成27年度	平成28年度	目標値
子ども読書まつり参加人数			主眼となる事業のため	人	49	49	60
成果指標			指標設定の理由・考え方	単位	平成27年度	平成28年度	目標値
児童図書貸出点数(年間)			児童図書の利用状況	点	33,235	30,880	34,000

3 平成28年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	町全体における子どもの読書活動を推進することを目的としていることから、町が直接実施すべきと考える。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	4	ブックリストや読書手帳の配布を通じて、子どもの読書意欲を喚起した。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4	各関係機関の連携のもと、子どもの読書環境の整備が進んでいると考える。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	4	幼児から中学生に対してのアプローチはできているが、高校生の読書推進についてはより充実した方がよいと考える。
平成28年度までの自己評価または改善点		第三次湯河原町子ども読書活動推進計画を策定し、今後の子ども読書活動の指針を示した。	

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)		
委託・指定管理導入の可能性	2	子ども読書に関わる機関の連携を行政が中心となり調整しており、また子ども読書活動推進協議会が事業の推進を担っている。
平成29年度の見直し及び改善 (実績または予定)	学校図書館の活性化、うちどく(家読)の推進、本を選ぶ力の育成など「第三次子ども読書推進計画」の重点を進めていく。	
平成30年度以降の方向性	「第三次湯河原町子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書活動を総合的に推進する。	

5 一次評価(平成30年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--